

2021年度 一般選抜Ⅰ期試験問題

国語総合(古文・漢文を除く)

長岡崇徳大学看護学部看護学科

第1問 次の文章を読んで各問に答えなさい。

——風車を立てるのは、これは^A案外効き目があるかも知れぬと思った。

よい天気だったので、散歩がてら八幡さままで出かけることにした。間を置くと、面倒くさがりの癖が出るので、すぐ仕度をした。八幡さまの鳥居の脇に、昔から土産物屋があつて、風車をつとに差して売っていた覚えがあつたからだ、行つてみると間違いなかつた。

店番をしていた中年の主人が、よくまわるのを探しましよと立ってきた。私は赤いのを二つ頼んだ。主人は赤いセルロイド製の風車に息を吹きかけ、これならいいでしょうと、満足そうに渡して寄こした。二百円でいくらか釣りがきた。帰りは^①ケイダイを抜けて帰ろうと思つて一歩踏み出すと、その主人が、

「御苦労さまです」

と、声をかけてきた。

私には、それが不思議であつた。なにが御苦労さまなのか、あるいは別の人に云つた挨拶かと思つて、身辺をふり返つたが、主人の相手は私ばかりであつた。

道々考えたが、納得は行かず仕舞であつた。

庭に一坪ほどの池がある。昨年も卵がかえつて、金魚は大小三十尾余になつた。馴れてくると、餌をやるのが楽しみで、一尾一尾の顔も模様も覚え、これとこれは親子というような血統も知れてきた。どれも駄金魚ばかりだが、慣れれば可愛いものである。

買つてきた風車を、私はそれぞれ植木鉢の土に差し込み、池の中へ沈めた。沈めているうちにも、カラカラ軽い音をたてて風車はまわり出した。静かな日なのに、池の上を渡る風の道が幾筋かあるらしい。底も側面もコンクリートの池だが、二十年経つてみると、周囲の草木や、水草が繁つて、いくらか自然の水らしくなつた。何代か^②棲みついた蛙も出来たし、それを眼当ての山カガシも、確かに睡蓮の葉の上で日向ぼっこをする。

ところが、昨年の春過ぎから白さぎや五位さぎ、かわせみまで金魚をねらいにくるようになった。

一番最初に私が見つけたのは、鳥類図鑑を調べてみると五位さぎの幼鳥らしく、羽の色は茶褐色で瘡せており、嘴も異常に長く魔法使いのお婆さんという恰好で、芝生から池面を見詰めていた。池に下りた白さぎはすぐわかるが、かわせみは大きな木の小枝にひそみ、そこから池をねらうので、なかなか眼に入らない。飛んでいる時は美しい羽色だが、枝から水面を^③覗んだ正面に出逢うと、なんとも兇悪な表情である。これらの鳥は、庭のすぐ外を流れる滑川という小川の上を往き来し、この池に寄り道して行く。滑川の水がここ数年少しずつきれいになって、みんな二十年か三十年振りにどこかから戻ってきたのである。細い流れだが、二十年前には稚鮎が上ってきたし、オイカワ(はや)もいた。

二度三度と、この連中が池に近づいて金魚をねらう。時には池の中をわがもの顔に歩いていることすらある。是では金魚が全滅する。どうしても一工夫必要になつてきた。買物包みをしぼる金色や銀色の紐を蔵つてあるので、あれで注連飾り様の縄のれんを作り、楕円形の

池の上へ左右に張ることにした。風でゆれば、キラキラと光を放つ筈である。なるほどこれはうまく行って、終日池の辺りが④賑やかであったが、半月ばかりすると家の者から思いがけぬ苦情が出た。来客があると、必ずあれは何かと質問される。これから正月の客に一々返事するのはB煩に耐えぬし、他人さまの眼から見れば異様な眺めに相違ないから、撤去して欲しいというのである。来客の質問には、私も応じてきたが、異様な眺めというC家人の言葉遣いは腹立たしかった。金銀の注連縄を捨てて、風車を立てたのはそのため、これなら文句はあるまいと対抗意識が強かった。

風車は二本が競うように、軽快に廻ることもあったし、一方が一息入れて休むこともあった。今年は氷の張る日もまことにすくない。

「これなら文句はあるまい」

「そうですね、赤でなければ、もつとよかったと思うけど」

「あの色だからこそ、あいつらが驚くんだ」

そんな会話をしたついでに、土産物屋の親父が、「御苦労さま」と云ったのはどういう意味だろうと、家の者の意見を聞いてみたが、——さあ、と云った切りだった。

その後、親しくしている友人が、久し振りに訪ねてきて、⑤サツソク池の中の風車を見つけた。私は前後のいきさつを、説明しなければならなかった。

「昔田舎で、緋鯉の養殖をしていた男の話では、稚鯉をねらってくるカワセミを、かすみ網で引っかけて、嘴を針金でしばって逃がしたもんだそうだ。気持はわからないことはないが、ひどいことをしたもんさ。白さぎのことは知らないが、五位さぎは夜行性の鳥で、しかも群れて飛ぶという話を聞いたことがある。それが本当なら、君の工夫も残念ながら、^D五位さぎだけには通じそうもないぞ」

友人はニヤリと笑って、来る早々から年長の私をからかった。残念でないことはない。

春めいた風をうけて、風車は相変わらず、カラカラよく廻っていた。ふと私は、土産物屋の主人は私の風車の用途を⑥サツチして、それとなくひやかしたのではないかと思った。

さらに数日して、

「お土産屋さんの云った意味がわかりましたよ。お爺さんが、わざわざ孫のために風車を買ってきたと思って、そう云ったんです」と、家人は自信ありげに告げた。

かんじんの金魚だが、今年の暖冬のせい、二月の末に十尾ばかりが水藻のかけに寄り添ったのを見た。これで全部かどうか、そんなに集まっただけはないのだがと、この時よりはらした。

(永井龍男「風車」より)

問一 傍線部②、③、④の漢字に読み仮名をふり、①、⑤、⑥のカタカナを漢字に直して解答欄に書きなさい。

問二 傍線部Aで筆者は「案外効き目があるかも知れぬと思った」と述べているが、風車を立てるのは何に対して効果があると筆者は考えたのだろうか。本文をよく読んで、その点を二つ解答欄に書きなさい。

問三 傍線部B「煩に耐えぬ」の意味を、わかりやすく解答欄に書きなさい。

問四 傍線部C「家人」の本文での意味を、わかりやすく解答欄に書きなさい。

問五 傍線部Dで友人は「五位さぎだけには通じそうもない」と述べているが、どうして友人はそのように発言したのか。その理由を本文に即して説明しなさい。

第2問 次の文章を読んで各問に答えなさい。

ニホンザルの母子は、見ても心が和むほどむつまじい。少しでも自分の子どもがいじめられると、屈強なリーダー雄だったとしても、危険を冒しても子どもをかばおうとする。あかんぼが死ぬと、母ザルは死体をしっかり抱きかかえ、腐敗するまで離さない。ある母ザルなどは、骨だけになったあかんぼをいつまでも離さず、見る人の涙をさそった。

人が涙を流すのは何故だろうか。母ザルのつきない愛情を感じ、けなげな心情に同情し、わかれを惜しむ姿をいとおしく思うからである。こういう受けとり方はごく普通で素直なことなのだが、動物学者は言葉を濁すか擬人的だとして、このような解釈を①キョヒするだろう。

いったい母ザルは何を考え、どう思っているのか。こういう問いほど動物学者を②コンワクさせる質問はない。こういうとき、動物学者はAけちんぼの法則といわれる思考法を採用する。動物の行動についていろいろな解釈ができる場合、できるだけ擬人観を排した低次元の解釈にとどめよ、という考え方である。こういう立場からいうと、母ザルがわかれを惜んでいる、という解釈はできるだけ遠ざけた方がよいということになる。ある人にとっては、擬人的解釈をとる立場は、危険な思考法として、断乎として排除するであろう。

たしかに、新聞や雑誌にのる動物の話やある種の動物小説には、お涙頂戴的なのが多く、読んでいてやりきれないものが多い。しかし、死児を抱く母ザルの場合、母ザルは全く愛情を感じていないとか、わかれを惜しんでいないとつっぱねてしまうことが、はたして科学的だといっているのだろうか。擬人化というB錦の御旗で、ばっさり③一刀両断することに対して、私はいつも疑問を感じている。

母ザルが死児を抱きつづけるのは、死児への断ち切れない愛着がそうさせているのだと考えてよい。この点では、私たちがわかれに際して抱く感情と同じ性質のものを共有しているといつてよいだろう。だからといって、こういう事態を「わかれを惜んでいる」という表現をしてもいいのだろうか。もう少しこの問題を分析してみよう。

私たちは、長い間使った、あるいは大切にしている物——万年筆とか着物などを失ったり手放したりしたとき、がっかりするとか残念とか、惜しいといった感情を経験する。それは、物に対する愛情の切断という心的状態が、そう思わすのである。しかしこの場合、私たちは物にわかれを告げたというような表現はしない。わかれという場合には、たんなる愛着の切断だけでなく、それに別の何か加わっていることだから。

家や故郷を後にするとき、私たちは家や故郷にわかれを告げる、という言い方をする。何

故なのか。家も故郷もあるいは学び舎にしても、それらは私たちを④育んでくれたものである。ということ、それらはいわば生命あるもののごとく見立てることができ、またそう心の中に訴えるものがあるからなのだ。つまり、わかれというのは、生命あるものへの愛着を切断するとき感じる心的状況だといえる。

そしてそのとき迫ってくる感情は、悲しみとか淋しさといったものである。それらの感情は、過去のさまざまな断ちがたい想い出や未来の心象風景とが交錯し、不安と希望、嘆息と憧憬がないまぜになった現在という瞬間の移りゆきの中で、表現のできない強さで心をゆすぶりつづける。

こう考えてくると、母ザルがわが子の死という最もいたましい事実⑤ソウグウして、いったい何を感じ、何を思っているのかについて、多少の推測が可能である。第一には、彼女は悲しいとか淋しいとかといった感情をもちえているのだろうか。残念ながら、そのことには現在の科学的方法からは、否定的な見解をとらざるをえない。怒りやよろこびの感情は、サルには立派に存在する。しかし、悲しみの情は、おそらくどこまでもちえているか判定のしようもない。むしろもっていないという方が安全であろう。

もう一つ時間の問題。動物には、現在だけがあつて、過去や未来の時間観念はほとんどないといつてもよいであろう。ない、というのが極論にすぎれば、過去も未来も現在を中心にならずかに前後に延長された時間感覚としてしかとらえられていないとみなしてよいだろう。もちろん、記憶はある。サル類になると、かなりな記憶能力が認められる。しかしあえて過去がないと言いきったのは、過去の事実の記憶はあるが、その記憶に基づくイメージ形成がきわめて貧弱で、過去という観念をもちえていないからである。

実は、c こう いう 問題 を つき つ め る に は、系 統 と 進 化 の 土 俵 の 中 で 議 論 を 運 ば ね ば なら な い。つまり、動物を十把一からげにしてはいけなくて、ニホンザルでこうならば、もつと高等で人間に近いチンパンジーや類人猿ではどうか、という議論をしなければ片手落ちなのだが、長くなるので結論を急ごう。

わかれば、愛着の情の切断であると同時に、悲しさや淋しさを基調とした感情の複合を、時間軸にのせてくり広げるときに起こる心的状態であるとするならば、それは動物の世界では稀薄な現象である。もちろん、その⑥萌芽は見られ、進化が進むほど密度は濃くなつていき、人間において開花したものであつて、その意味できわめて人間的なものだといつてよい。

人間のドラマの中で、わかれば最も重要なモチーフの一つとしてとりあげられてきたのも、それがすぐれて人間特有のものであり、人間存在の根源につながっているからであろう。

(河合雅雄『望猿鏡から見た世界』による)

問一 傍線部③、④、⑥の漢字に読み仮名をふり、①、②、⑤のカタカナを漢字に直して解答欄に書きなさい。

問二 傍線部A「けちんぼの法則」といわれる思考法を本文では、「動物の行動についているような解釈ができる場合、できるだけ擬人観を排した低次元の解釈にとどめよ、という考え方」だと述べている。では、「動物の行動についているような解釈ができる場合、で

きるだけ擬人観を排した低次元の解釈にとどめ」とは、具体的にどのようなことを意味しているのだろうか。本文に即して、その内容を説明しなさい。

問三 傍線部B「錦の御旗」の意味を、わかりやすく解答欄に書きなさい。

問四 傍線部C「こういう問題」を本文では何と説明しているだろうか。指し示している部分によく注意して、その内容を簡潔にまとめなさい。

問五 傍線部D「十把一からげ」の意味を、わかりやすく解答欄に書きなさい。

問六 問題文中では、「わかれ」をどのように説明しているだろうか。適切だと思える部分を本文から五十字以上六十字以内で探し出し、それを解答欄に書きなさい。

第3問 次のAの解説文を読み、それに合致する作家名とその作家の代表的な作品を一つ挙げ、正しい漢字で解答欄に書きなさい。ただし、作品名は、解説文に記されているもの以外から挙げること(作家名をひらがなで書く場合は部分点、また、作品名が元来ひらがなである場合はそれを可とする)。また、B、C、Dのことわざについて、それぞれの意味を解答欄に書きなさい。

A 日本人初のノーベル文学賞を受賞した作家であり、大正後期から昭和にかけて、すぐれた作品を生み出した。代表作に日本の叙情的美の世界を描いた「雪国」や「古都」などがある。

B 千里の道も一歩から

C 石橋をたたいて渡る

D 三人寄れば文殊の知恵